

東和地域支援室通信

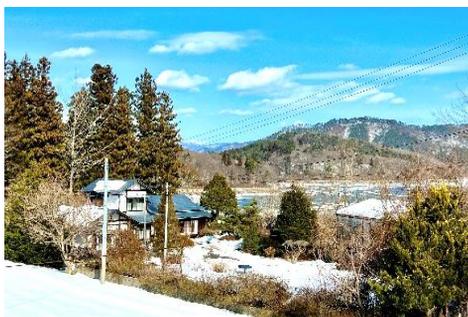
令和5年1月号

東和総合支所地域振興課地域支援室：東和町土沢8区60 電話 41-6514(直通)

地域おこし協力隊紹介 田瀬に「ぼうまい村」をつくる坊迫舞香さん



坊迫 舞香 (ぼうさこ まいか)
滋賀県甲賀市出身。R3.9.1より花巻市
地域おこし協力隊に就任。



リノベーション中の古民家を中心とした
田瀬のぼうまい村

■田瀬で村づくりをはじめまで

地域おこし協力隊の坊迫舞香です。シティプロモーションとして東和町田瀬に「ぼうまい村」を勝手につくっています。地域おこし協力隊になる前はメキシコと東京で働いていました。前職(東京)の出張で花巻市に来たことがきっかけで、自分の村をつくる場所を花巻市に決めました。わたしが村をつくりたいと思ったのは大学4年生でアルゼンチンの留学から帰ってきたときです。日本で就職するためにはみんな同じ黒いスーツ、同じ髪型にしなければならないことに窮屈さを感じ、日本での就職を一度諦めました。わたしは旅行もあわせると今までに20カ国くらいいろんな国にいきましたが、やっぱり日本が好きです。そんな日本で好きなように生きるにはどうすればいいか？わたしの答えはそういう環境を自分でつくればいいのか、それが村でした。

■「ぼうまい村」の今後について

今はまだ始まったばかりで毎日試行錯誤、なにができるのかわからないためほんとうにたくさんのことに挑戦しています。最終的には今リノベーションしている古民家を中心にこの地域に仕事を生み出し、今の日本で生きづらいと感じている人が伸び伸びと働ける、生活できる、そんな村にしていきたいです。来年は古民家の改装を終え、宿泊施設へと生まれ変わらせ、体験農業として今年の5倍の量のホップを栽培する予定です。ホップはオーナー制にしてたくさんの人に関わってもらおうと考えています。興味のある方はご連絡ください。(bomai@hugmapache.com)

合移住・定住ミニ情報合

お持ちの家について、空き家になる前に次のような対策をしておくことで、空き家にならずに済んだり、空き家になった場合でも対応がスムーズに行えるようになります。

<input checked="" type="checkbox"/> 登記の整理	不動産登記簿の確認と相続登記を済ませる
<input checked="" type="checkbox"/> 管理方法の検討	空き家になった場合の管理方法について、家族・親族で検討しておく
<input checked="" type="checkbox"/> 判断能力が衰える前の処分	所有者本人の判断能力があるうちに売却などの処分を検討する
<input checked="" type="checkbox"/> 成年後見制度の利用	所有者本人が認知症などで判断能力が衰えた場合、成年後見制度を利用して、財産を守れるようにしておく
<input checked="" type="checkbox"/> 荷物・家財の整理	不要な荷物の処分や家財の整理を少しずつ進めておく
<input checked="" type="checkbox"/> 家族信託の利用	家族信託制度を利用して、信頼できる家族に不動産の管理や処分を任せる
<input checked="" type="checkbox"/> 継承者の指定	特定の相続人、もしくは第三者や特定団体への寄付などを行う

いざというときに困らないよう、先々の検討はお早めに！

【問合せ】

☎花巻市役所定住推進課定住推進係 41-3516

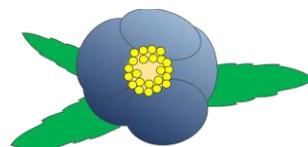
☎東和地域

受付場所：東和町土沢5区372番地 東和おもしろ作戦研究所内

TEL：29-6500 FAX：29-6501 Eメール：omoshiro@leaf.ocn.ne.jp

受付時間：月～金 9：00～12：00 担当：菅野 大石

そのほかの時間帯は留守番電話に入れていただければ折り返し連絡を差し上げます。





元地域おこし協力隊の岡田芳美さんによる連載企画。『I-Ju はなまき』はUターンの芳美さんとIターンの旦那さんが発起人となり立ち上げた移住者のためのプロジェクトです。『I-Ju』は“移住”と“いい住まい”の意味。さらに奥田民生さんの「I-Ju★ライダー」へのオマージュを込めているそうです。

I-Ju はなまきの岡田です。新年ですね！本年も「もっとローカル！」どうぞよろしくお祈りします。今回は、東和町新地にお住まいでUターンされて6年目となる、菅原さんにお話をお聞きしました。

+.☆+.☆+.☆+.☆★インタビュー第7弾 菅原 智恵子さん★☆+.☆+.☆+.☆+.☆+.☆+.☆

▼これまで...

東和町出身。理学療法士(リハビリの専門職)として雫石町で勤めた後、結婚を機に神奈川県横須賀市で暮らし始めますが、ゆくゆくは岩手に戻りたいと伝えていました。2017年、妊娠・出産のタイミングに合わせてUターンしてきました。

▼Uターンの理由&東和の好きなところ

3年ほど暮らした横須賀は、米軍基地があって異文化の入り混じる魅力や刺激がたくさんあるとっても楽しい街でしたが、やっぱり子育ては東和でしたくて！子どもには自然いっぱいの環境で育ててほしいという思いがありました。それに改めて、花巻・東和の人は皆さんとても優しいなと感じます😊ちなみに、横須賀出身の夫は寒さにもものすごく弱く、秋頃からダウンを着始めます(笑)

▼これから...

実は、2018年に市で開催した「私たちの月3万円ビジネス」通称3ビズの講座がきっかけで『あんころ』としても活動しています。イベントでどら焼きを販売したり、あんこ炊きのワークショップなども。また、昨年から実家の畑で白小豆栽培にもチャレンジしていて、沢山のあんこが炊けるくらい収穫できるようになりたいです！

『あんころ』についてはこちらからどうぞ⇒



あんこ炊きワークショップでの菅原さん

I-Ju はなまきWEBでは、インタビューの全文がお読みいただけます。

こちらからどうぞ⇒



東和の生き物12か月

野鳥(サシバ)の研究で修士課程を修了した地域支援室 糸川拓真主査が東和地域で観察できる生き物について解説します。

1月 ハイタカ (ある雪の日に出会った小さな狩りの達人)

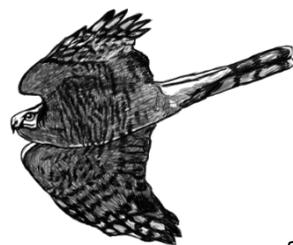
新年あけましておめでとうございます。東和の町も2023年を迎えました。今年も凍てついた冬の日々が続いていますが、今回は「一富士、二鷹、三茄子」で有名な縁起の良い鷹の一種ハイタカについて、先日保護した体験を交えて紹介させて頂きたいと思います。

ハイタカは、全長32~40cm程度の小型の鷹で、良く似るオオタカの50~60cmと比べると1~2周りほど小柄です。恐らくハトよりも小さいと感じる大きさですが、そのハトすら捕食する狩りの達人でもあります。日本では、低地から亜高山帯まで林のある幅広い環境に生息しており、一部は冬季に暖かい場所に移動する個体もいます。肉食で、小鳥や小型哺乳類、昆虫類などを巧みに狩り餌とします。「疾き鷹」が語源とされ、昔はオオタカとともに鷹狩に重宝されておりました。

ハイタカは、雌雄で大きさや体色が異なります。雌は大柄で灰褐色の体色をしており、腹部には灰色の帯が細かくあります。対して雄は雌より小柄で、特に腹部が褐色の帯模様があり、全体的に茶色味が強い体色をしています。そのため、昔は雄をハイタカではなく「コノリ」と呼称していました。なお、現在は数が減少し準絶滅危惧種となっています。

さて、雪の降りしきる12月中頃、町民の方から「鳩より小さい鷹のような鳥がうずくまっている。」と連絡がありました。もしハイタカであれば保護が必要となるため、職員2名で現場に駆け付けました。すると、雑木林の手前に成鳥のハイタカがうずくまっており、衰弱が激しい状態でした。タオルで目隠しし確保するのに少し手間取りましたが、何とか段ボールに入れて支所に連れ帰り、ほどなく花巻保健福祉環境センターに引き渡すことができました。その後1月上旬に確認した所、県の鳥獣保護センターにて翼の怪我の治療を受け療養中との話でした。野生動物は繊細で、適切な治療を受けても力尽きてしまうことが珍しくないため、回復できるかどうかは個々の生命力次第となりますが、保護されたハイタカが再び元気に東和の空を飛翔できることを願っております。

この季節、冬鳥、特にハクチョウなどの水鳥やカラスが衰弱してうずくまっていたり倒れていたりする場合があります。怪我などで衰弱しているケースもありますが、群れを作る鳥の場合は、鳥インフルエンザ感染の可能性もあることから、見かけた際には決して触らずに、岩手県の花巻保健福祉環境センターに連絡を入れるようよろしくお願いいたします。



絵：地域支援室伊藤